

# あいちトリエンナーレ 2010

Aichi Triennale 2010

プレスリリース

2009.3.25



新たに愛知から文化芸術を世界に発信するため、

2010年（平成22年）、「あいちトリエンナーレ2010」を開催します。

「あいちトリエンナーレ」は、3年ごとに定期開催する国際芸術祭です。初回は、「都市の祝祭 Arts and Cities」というテーマのもと、現代美術作品の展示や舞台芸術の公演によって、世界の最先端の動向を紹介するとともに、わくわくするような高揚感のある雰囲気演出して、さまざまな感動体験をしていただきます。

愛知・名古屋の文化のシンボルとして皆様に親しまれるようなトリエンナーレになることを目指しています。「あいちトリエンナーレ2010」にご期待ください。

## ■ 開催概要

正式名称： あいちトリエンナーレ 2010  
Aichi Triennale 2010

テーマ： 都市の祝祭 Arts and Cities

開催目的： ○新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。  
○現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。  
○文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。

開催時期： 2010年（平成22年）8月21日（土）～10月31日（日）＜72日間＞

会場等： 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館  
※その他、オアシス 21、テレビ塔などの公園や施設、オフィス街や商店街など隣接都市空間  
で展開するほか、様々な文化芸術施設等との連携を検討します。  
(各施設の紹介については7ページ参照)

事業展開： ○現代美術を基軸としますが、愛知芸術文化センターの複合機能を活かし、舞踊、オペラなどの舞台芸術も併せて展開します。  
○美術、舞台芸術などの部門で幅広い層を対象とした様々な普及・教育プログラムを展開します。  
○県民に親しまれ、祝祭的な賑わいや盛り上げを図る事業を展開します。

主催： あいちトリエンナーレ実行委員会  
(愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所、社団法人中部経済連合会、中日新聞社、NHK名古屋放送局、財団法人愛知県文化振興事業団、芸術に関わる学識経験者等)

芸術監督： 建畠 哲（たてはた あきら）  
国立国際美術館館長

問い合わせ先：  
あいちトリエンナーレ実行委員会事務局  
(愛知県県民生活部文化芸術課国際芸術祭推進室内)  
〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 愛知芸術文化センター6階  
TEL：052-971-6111 FAX：052-971-6115  
E-mail：geijutsusai@pref.aichi.lg.jp  
公式ホームページ：http://www.aichitriennale.jp

## ■ 芸術監督

建畠 哲 Akira Tatehata

国立国際美術館館長

1947年京都府生まれ。

1972年早稲田大学文学部仏文学科卒業後、新潮社勤務、文化庁を経て、国立国際美術館研究官（1976年～1991年）。多摩美術大学助教授・教授（芸術学科）を経て、2005年から国立国際美術館館長、独立行政法人国立美術館理事。専門は近代と現代の美術。

1990年と1993年に、ヴェネツィアビエンナーレの日本パヴィリオンコミッショナーを務めたほか、2001年の第1回横浜トリエンナーレでは4人のアーティストック・ディレクターのうちの1人。その他、2002年の釜山ビエンナーレ・エキジビション・ディレクティング・チーム（4名体制）のメンバーを務めるなど、国際的な芸術祭の経験が豊富。

国内の美術展としては、「アジアのモダニズム」展（1995年）、「インド現代美術展」（1998年）など、アジアの現代美術に目配りした展覧会を数多く企画し、国立国際美術館では「エミリー・ウングワレー展」、「液晶絵画展」、「アヴァンギャルド・チャイナ―中国当代美術20年展>」等を企画している。

著書は「ダブリンの緑」、「問いなき回答」（以上、五柳書院）など多数。代表的な詩集に「余白のランナー」（思潮社、歷程新鋭賞受賞）「零度の犬」（書肆山田、高見順賞受賞）などがあり、美術評論家としてのみならず、詩人としても活躍している。

## ■ キュレーター

ピエル・ルイジ・タッツィ Pier Luigi Tazzi

〈美術評論家、インディペンデント・キュレーター、イタリア在住〉

第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ（1988年、イタリア）キュレーター

ドクメンタ9（1992年、ドイツ）共同キュレーター

拝戸 雅彦 Masahiko Haito

〈愛知県美術館主任学芸員〉

笠木 日南子 Hinako Kasagi

〈名古屋市美術館学芸員〉

（2009年3月現在／今後、追加される予定です。）

## ■ テーマ：「都市の祝祭 Arts and Cities」

あいちトリエンナーレ 2010 は、日本における最大級の国際展として、地域の方々の、また国内外からの熱い期待を担いつつ、2年後の開催に向けて本格的な準備が始まりました。このトリエンナーレを愛知・名古屋の文化のシンボルとして多くの市民に親しまれ、海外への芸術の発信基地としても注目されるユニークな特色をもったものにするために、私たちは次のような三つの基本方針を掲げています。

第一の方針は美術を中心とした現代芸術の先端的な動向を、国際的な視野によって紹介することにあります。芸術の世界でいま何が起きているかに焦点を当てること、私たちの同時代のアーティストたちの活動の生き生きとした息吹きを伝えることは、今回を皮切りに定期的に開催されることになるこのトリエンナーレの基本的な使命といえるでしょう。新たな芸術の動向がここに集約され、またここから国内外に発信されていくことは、愛知の文化芸術の活性化にも大きな役割を果たすに違いありません。

第二の方針は都市の祝祭としての高揚感を演出することにあります。美術館や劇場のみならず、野外の広場や公園など、まち中へも進出して行く壮大なプロジェクトは、大都会の中に非日常的な魅力に満ちた光景を出現させることでしょう。優れた芸術を鑑賞する機会であると同時に、市民同士の、また市民とアーティストの間での作品を前にした新鮮なコミュニケーションの場ともなることが、このトリエンナーレには期待されているのです。

三つ目は現代美術を基軸にしつつ、オペラやダンス、音楽などのパフォーマンス・アートをも積極的に取り込むという、従来国際展には見られなかった新機軸を打ち出していることです。それも多様な分野の作品を別々に展示・上演するのではなく、むしろ可能な限り相互的な関係を重視し、ジャンルの垣根を越えた積極的な交流が起きるような機会となることを私たちは目指しているのです。

あいちトリエンナーレ 2010 はこうした基本方針に基づいて開催されます。大いなる都市の祝祭を実現させるために、私たちは是非とも市民の方々と肩を組んで準備を進めていかなければならないと考えています。皆さまのご理解とご協力を心からお願いする次第です。

あいちトリエンナーレ 2010  
芸術監督 建島 哲

## ■ 企画概要

### 現代美術：

- 現代美術の国際展
  - ・国内外から 70 名程度の作家が出品予定
  - ・愛知芸術文化センターに隣接するオアシス 21 やテレビ塔を中心とした久屋大通公園一帯では、スペクタクルな作品を展示

[愛知県美術館、愛知芸術文化センター内の空間、名古屋市美術館、隣接都市空間]
- 企画コンペによる展覧会
  - ・新進作家等を対象にした企画コンペによる展覧会

[愛知芸術文化センターアートスペース、オフィス街・商店街等隣接都市空間]

### 舞台芸術：

- 複合舞台芸術
  - ・ダンス、音楽、演劇等の舞台芸術と先鋭的な美術表現が一体化した公演

(国内外から 7 程度の団体等を予定) [愛知芸術文化センター小ホール等]
- コンテンポラリーダンス
  - ・海外 1 団体：ローザス (ベルギー) [愛知芸術文化センター大ホール]
- プロデュースオペラ
  - ・コンテンポラリーダンスの第一人者金森穰の演出による斬新なプロデュースオペラ公演

演目：オフエンバック作曲「ホフマン物語」[愛知芸術文化センター大ホール]
- 事業者等と連携した舞台公演
  - ・国際的なバレエ、ダンス、コンサート等の公演

[愛知芸術文化センター大ホール、コンサートホール]

### 普及・教育：

- 出品作家や実演家等による作品制作・実演指導等のワークショップ
- [愛知芸術文化センターアートスペース等、県内文化芸術施設等]
- 出品作家の作品をわかりやすく紹介・解説するガイドブック等を作成

### 祝祭的展開：

- 祝祭的なにぎわいや盛り上げを図るイベント
- [愛知芸術文化センターフォーラム、隣接都市空間]
- 祝祭ウィーク (仮称)：公募方式による地元文化芸術団体等の公演等との共催
- [愛知芸術文化センター大ホール、コンサートホール等]

### 県内文化芸術施設・団体等との連携：

- 市町村や民間の美術館・ホール、地元文化芸術団体等が行う展覧会や公演等との連携

## ■ 施設紹介

### 愛知芸術文化センター

美術館とオペラハウス機能をもつ大ホールやコンサートホールなどが複合した、日本屈指の大規模文化芸術施設。1992年開館。

### 名古屋市美術館

名古屋中心部の緑豊かな白川公園の中にある美術館。近代美術のみならず、地元の現代美術作家を紹介する「ポジション」などの展覧会も多く開催。1988年開館。

### オアシス 21

愛知芸術文化センターに隣接する、公園やバスターミナルなどの公共施設と商業施設との複合施設。吹き抜けの地下広場の真上には、オアシス 21 のシンボル「水の宇宙船」がある。

### テレビ塔

久屋大通公園の真ん中に立てられた、日本最初の集約電波塔。名古屋地区を一望できる観光展望台も備えた名古屋中心部のシンボル。高さ 180m。

■ 出品予定作家（順次追加されます）

作家名（活動拠点）	主な経歴等
草間 彌生 Yayoi Kusama （日本）	1929年長野県松本市生まれ。東京在住。10歳の頃より水玉と網模様をモチーフに絵を描き始める。1957年に渡米し、巨大な平面作品、ソフトスカルプチャー、鏡や電飾を使った環境彫刻を発表。1973年帰国。1993年第45回ヴェネツィア・ビエンナーレに参加。
渡辺 英司 Eiji Watanabe （日本）	1961年愛知県生まれ。名古屋市在住。1985年に愛知県立芸術大学彫刻科を卒業。2004年から2005年の間にはスコットランドに滞在。現代社会に広く流通している商品を主な材料としながら、人々の先入観や思い込みを裏切りつつ楽しませる斬新な表現を試みる。
西野 達 Tatsu Niscino （ドイツ）	1960年名古屋市生まれ。ケルン在住。武蔵野美術大学を卒業後、1987年にドイツに渡り、ミュンスター芸術アカデミーで彫刻を学んだ後、1997年から主にヨーロッパで活動。都市を舞台とした、人々を多く巻き込む大胆で冒険的なプロジェクトを数多く発表。
島袋 道浩 Shimabuku （ドイツ）	1969年神戸市生まれ。ベルリン在住。1992年サン・フランシスコ・アート・インスティテュート卒業。90年代初頭よりサイトスペシフィックなプロジェクトやパフォーマンスを中心に国内外の様々な場所で活動。
ヤン・フードン Yang Fudon （中国）	1971年北京生まれ。上海在住。2001年の第1回横浜トリエンナーレで中国国外での初発表をきっかけとして、2002年のドクメンタ、2007年のヴェネツィア・ビエンナーレに出品するなど、国際的な映像作家としての道を進み、その名声を確固たるものとした。
ホアン・スー・チエ Huang Shih Chieh （アメリカ）	1975年台北生まれ。ニューヨーク在住。液体も含むどこでも手に入る日用品を素材に、簡単な電気的な仕掛けを与えて、動きのある色鮮やかな立体的なインスタレーションを試みる。ヴェネツィアも含む世界各地で展示を発表。
ダビデ・リバルタ Davide Rivalta （イタリア）	1974年ボローニャ生まれ。ボローニャ在住。ゴリラやサイなどの、ほぼ等身大の動物の形をブロンズなどで作り、街中も含めた、意外性のある状況に設置する彫刻家。現実と虚構とがないまぜになって、作品を見る者に驚きをもたらす。

■ 公演予定団体等（順次追加されます）

団体名等（活動拠点）	主な経歴等
ヤン・ファールブル Jan Fabre （ベルギー）	演劇やオペラの演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を生み続ける、現代の最も革新的かつ多才なアーティストとして世界的に知られている。
チェルフィッチュ chelfitsch （日本）	劇作家、演出家である岡田利規が率いる劇団。現代を象徴するような日本語による台詞と、それを話す際の日常的でだらしない身体性など、斬新なオリジナルスタイルで脚光を浴びている。
ニブロール Nibroll （日本）	ダンスを中心に映像、音楽、美術、衣装、照明などの各分野で活躍するアーティストが結集したカンパニー。国内外のフェスティバルで作品を発表し、注目を集めている。
ローザス Rosas （ベルギー）	ベルギー王立モネ劇場専属カンパニーの経歴を持つ、ベルギーを代表するダンスカンパニー。パリ・オペラ座やニューヨーク・リンカーンセンターを始め世界各国で上演され絶賛されている。

■ プロデュースオペラ

公演日	平成22年9月18日（土）、20日（月・祝）	特 徴 詩人ホフマンが、自身の破れた3つの恋を物語る、オペレッタで有名な作曲家オッフェンバックの唯一のオペラ。E.T.A.ホフマンの小説をもとにした幻想的で華やかなフランスオペラ珠玉の傑作。演出に、コンテンポラリーダンスの第一人者である金森穰を起用し、異分野の才能との組み合わせを実現。関連事業として、鑑賞講座、舞台見学等を予定。
演目	オッフェンバック作曲「ホフマン物語」 （全5幕、フランス語、1881年初演）	
演出家	金森 穰 新潟市民芸術文化会館一舞踊部門芸術監督 レジデンシャル・カンパニーNoism 芸術監督	